

2024（令和6）年度 福岡女子大学 外国人留学生入試

〔 二次募集試験問題 〕

環境科学科

小論文

【 60分 】

注意事項

- 1 試験開始の合図があるまで、この問題冊子の中を見てはいけません。
- 2 問題は4ページから5ページにあります。問題は全部で**1題**です。
- 3 解答は日本語か英語のどちらかで答えなさい。解答用紙の裏に英語用の解答欄があります。
- 4 試験中に問題用紙の印刷不鮮明、ページの落丁・乱丁および解答用紙の汚れ等に気づいた場合は、手を挙げて監督者に知らせてください。
- 5 試験開始と同時に解答用紙の**受験番号欄に受験番号**を記入してください。
- 6 試験終了後、**問題冊子は持ち帰ってください**。





## 問題

以下の図は 2013 年度から 2020 年度までの日本における温室効果ガスの総排出量と吸収量の実態、表は 2020 年度の部門別の日本における二酸化炭素の排出量の確報値<sup>※</sup>を示したものである。図および表を読み取った上で以下の問いに答えなさい。

なお、図において排出量は+（プラス）、吸収量は-（マイナス）としている。

※ 確報値とは、「日本における温室効果ガスの排出・吸収目録として気候変動に関する国際連合枠組条約事務局に正式に提出する値」を意味する。



注1：CO<sub>2</sub>換算とは、様々な温室効果ガスの排出量を、それぞれの温室効果の強さに応じてCO<sub>2</sub>の排出量に換算した上で合計した総排出量を表す。

図 日本における温室効果ガスの排出量

表 日本における二酸化炭素排出量(2020年度)

	排出量(百万トン)	対前年度比 (%)
総排出量 <sup>注2</sup>	1,044	- 5.8
家庭部門	166	+ 4.5
運輸部門	185	- 10.2
産業部門 <sup>注3</sup>	356	- 8.1
業務部門 <sup>注4</sup>	182	- 4.7

注2：ほかにエネルギー転換部門、非エネルギーCO<sub>2</sub>からの排出量を加算している。  
 注3：製造業（工場）、農林水産業、鉱業、建設業  
 注4：事務所・ビル、商業・サービス業施設等

出典

図 環境省「令和4年版 環境白書 循環型社会白書/生物多様性白書 (p. 7)」より抜粋, 一部  
改変

表 国土交通省「令和4年版 国土交通白書 (p. 22)」より抜粋, 一部改変

問1 図より、2013年度から2020年度までの日本における温室効果ガスの総排出量は、  
減少傾向を示している。この背景には、どの様な要因があると考えられるか、200  
字 (100 words) 以内で述べなさい。

問2 2013年度から2020年度までの日本における温暖効果ガス総排出量は図が示すよ  
うに減少傾向にある中で、2020年度の二酸化炭素排出量は表が示すように、対前  
年度 (2019年度) 比で見ると家庭部門においては増加し、運輸部門についてはその  
減少が特に大きくなっている。

2020年度の二酸化炭素排出量が対前年度比において家庭部門で増加した背景、  
運輸部門で減少が特に大きくなった背景には、それぞれどの様な要因があると考え  
られるか、それぞれ100字 (50 words) 以内で述べなさい。

問3 地球温暖化を防ぐためには、二酸化炭素などの温室効果ガスの排出量を減らして  
いくことが求められる。

私たちは二酸化炭素の排出量を抑えるために、これからどの様な取り組みをして  
いくことが有効であるのか、図および表を参考にして、あなたの考えを200字 (100  
words) 以内で述べなさい。